

## 商品市況展望

平成 24 年 9 月 9 日記

注目の ECB 理事会（6 日）は、無制限での国債購入を表明したためユーロが買われ、続く米雇用統計（7 日）は予想を下回る弱いものとなったために金が急騰。取りあえず第一ラウンドは買い方に凱歌が上がった形であり、来週は第二ラウンドの FOMC（13 日）が注目される。

さて今回の米雇用統計では、非農業部門雇用者数（NFP）は 9.6 万人増と、予想（12.5～13 万増）を下回る弱い結果となった。失業率自体は前回同様の 8.3%の事前予想から、結果は 8.1%と改善しているのであるが、とにかくこれで金価格は来週の FOMC での金融緩和期待が高まり、35 ドルほど一気に上昇したわけである。

結果、金相場は 1740 ドル台まで急騰であり、ユーロ/円も 100 円台に乗せる円安/ユーロ高の展開である。

しかしその割には、金以外の商品はそんなに高騰していない。金だけは NEP の数値を受けてパニック買いとなったわけだが、プラチナや原油、穀物などは反応しなかった。株もそれまで上がっていたためか、週末はそんなに上がってはいなかった。

冷静に考えると、まず ECB 理事会での無制限国債購入であるが、これは確かに目先のユーロの強材料であり、対円でも対ドルでもユーロは上昇。スペイン国債の金利も 6%台→5.6%台まで買い戻されている。しかし考えてみれば、それでもまだ 5.6%もあるわけだ。

しかも買い入れを行うためには厳しい財政再建が義務付けられるわけで、景気や一段の雇用悪化に繋がる恐れのある財政再建を、スペインが受け入れるかどうかは不透明。そういう意味では、これで万事解決とはならないだろう。

また商品相場に対するこの問題の影響としては、国債買い入れは『マネーサプライを増やさないように国債買い取りで市場に放出された資金を吸収する不胎化政策を採る』のだから、「心理的なリスク資産への投資の安心感」以外には、買い材料にはならないだろう。

問題は、失業率自体は改善、NEP は悪化という今回の米雇用統計を受けて、金市場が期待したような金融緩和、しかも QE3 と言われるような本格的な金融緩和が次週の FOMC で決定されるかどうかである。

実行されれば株式市場も金以外の商品相場も急騰するだろうが、元々は「今回の金融緩和は見送り」というのが事前予想だったわけで、出しても小出しになる可能性も高い。そうは言っても、今回の雇用統計の結果を受けてどんな判断をするのかは、バーナンキ議長以下の FRB メンバーが決める事だ。

果たしてサプライズがあるのか？ はたまた見送りで、商品相場は一度冷やされるのか？

国内市場は、来週末 14 日（金）は 3 連休前の立会いなので、FOMC 明けを本当に消化するのは再来週になるだろう。18 日（火）はいきなり大きく放れている可能性もあるわけで、あまり大きなポジションを取るとリスクが高いかも…。

## 〔貴金属〕

○東京金日足

…削除済み…

### 今週の金の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月3日	¥4,256	79	¥4,264	76
9月4日	¥4,274	18	¥4,282	18
9月5日	¥4,271	-3	¥4,278	-4
9月6日	¥4,299	28	¥4,307	29
9月7日	¥4,301	2	¥4,309	2

金相場は、先週号においては『すでに夜間取引で高値更新をしている相場であり、QE3期待の相場は更に高値に舞い上がっても不思議ではないだろう。押し目買い方針の継続がベターであり、QE3次第では大相場に発展する相場になる事を期待したい』とコメントした。

今週の相場展開は、続伸して**4,351円(9/7)まで上昇**。5月からの急落の前の水準である4,300円台まで上昇したわけだが、その後の夜間取引では弱い米雇用統計の発表を受けて、QE3期待が台頭。更に続伸した相場は、**4,387円の高値まで出している**。

週明けはジャクソンホールでのバーナンキFRB議長の発言で30ドル高、そして週末も今回の米雇用統計で35ドル高である。

元々、『次のターゲットは5月頭の急落前の価格である**4,300円台**。更に加速が付くようなら、もみ合いの高値**4,183円**と安値**3,886円**の上下幅**297円**の倍返し**の4,480円**』としていたわけだから、この上げはある意味想定範囲内。問題は、来週のFOMCである。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,652	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,301
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,654	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,306
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,654	2月27日	¥3,885	6月4日	¥4,311
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,350	9月7日	¥3,886	6月4日	¥4,309
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥4,350	9月7日	¥3,940	7月24日	¥4,309
2013年8月	¥4,224	8月29日	¥4,351	9月7日	¥4,166	9月3日	¥4,309

○NY金日足

…削除済み…

週末9/7のNY市場は、前日比**34.9ドル高**の**1740.5ドル**での終了。高値は**1745.4ドル**まであり、東京市場も夜間取引で急騰したわけだ。

もっとも、為替は対ユーロでは100円台に乗せる円安であるが、対ドルでは一時**77.99円**までの円高でもある。終わりは**78.22円**であるが、円高分だけ東京はちょっと買われ過ぎたかも。

このところコメントしているとおおり、『**チャートでは、1530ドル～1640ドルでのもみ合いを**

上放れである。もみ合いの倍返しで1750ドルまで上がってもおかしくない』という水準に近づいてきているだけに、FOMC でよほどの強材料が出ないとそろそろ天井を付けてもおかしくはないのでは？

もっとも強ければ、1800ドルに乗せて、更に舞い上がるだろうが…。

CFTC 発表の9/4現在のファンドのポジションは、…中略…

9/7現在のETF残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、そろそろ戻り天井が近づいて来ているのではないかと判断と、万が一 FOMC で強材料が出れば更なる大相場になるのではないかという見方で、5分5分のところではないかと考える。よって急騰場面は買い玉の利食い先行で、新規はしばらく様子見としたい。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

今週のプラチナの動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月3日	¥3,906	97	¥3,902	92
9月4日	¥3,937	31	¥3,938	36
9月5日	¥3,943	6	¥3,941	3
9月6日	¥4,020	77	¥4,026	85
9月7日	¥4,017	-3	¥4,024	-2

プラチナ相場は、先週号においては『押し目買い方針の継続。株価の動向に注意が必要であり、場合によっては金以上に乱高下するだろうが、底は入っている相場だろうと考えているゆえに』とコメントした。

今週の相場展開は、週末には **4,067 円 (9/7) まで上昇**し、4,000 円台を回復。その後の夜間取引では、金が急騰したのに対し、プラチナは高値で 4,056 円、終わりは 4,026 円と 2 円高にとどまった。

今週の上昇は金以上の強さがあったわけだが、**週末の雇用統計では材料視されず**。それでも NY プラチナは…中略…

ここから一段と上昇できるかどうかは、FOMC 次第だろう。QE3 と呼べるような金融緩和第 3 弾があれば上がるし、無ければ押しが来るのだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012 年 10 月	¥3,918	10 月 27 日	¥4,570	3 月 14 日	¥3,375	12 月 30 日	¥4,017
2012 年 12 月	¥3,605	12 月 26 日	¥4,582	3 月 14 日	¥3,471	7 月 24 日	¥4,023
2013 年 2 月	¥4,535	2 月 27 日	¥4,589	3 月 14 日	¥3,468	7 月 24 日	¥4,010
2013 年 4 月	¥4,090	4 月 25 日	¥4,141	4 月 27 日	¥3,466	7 月 24 日	¥4,015
2013 年 6 月	¥3,681	6 月 27 日	<b>¥4,063</b>	<b>9 月 7 日</b>	¥3,460	7 月 24 日	¥4,020
2013 年 8 月	¥3,860	8 月 29 日	<b>¥4,067</b>	<b>9 月 7 日</b>	¥3,807	8 月 31 日	¥4,024

○プラチナー金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,024 円 (プラチナ) - 4,309 円 (金) = **-285 円**。

**-550 円 (8/13) は大底、-378 円 (8/31) は 2 番底**だろうが、目先はその **-378 円~-245 円の間**でのみ合いに入るだろう。

結論として当方の相場観は、取りあえず **4,000 円台回復**という目標値までは来た。ここから一段高するには、実際に FOMC で QE3 が出る事が条件となろう。出なければ、戻りはここまでの事になるだろう。

## 〔穀物〕

○東京コーン日足

…削除済み…

今週のコーンの値動き

	11月限(当限)	前日比	9月限(先限)	前日比
9月3日	¥29,500	50	¥27,790	-40
9月4日	¥29,700	200	¥28,010	220
9月5日	¥29,700	0	¥27,920	-90
9月6日	¥29,000	-700	¥27,400	-520
9月7日	¥29,000	0	¥27,740	340

まずはコーンから…

先週号においては『チャートの格好は良くないため、ひょっとしたら一度急落して、買い玉が投げさせられる場面もあるか？ ただし基本的には高値持ち合いで、年末までまだ高い場面も出る可能性も否定出来ないというのが、今の当方の基本的な考え方である』とコメントした。

今週の相場展開は、先物は6日の急落によって重要な下値抵抗線であった27,590円(7/24)も割り込み、27,310円まで下落。一目均衡表の雲の中にも突入し、ますますチャート線形は悪化しているのだが、そのまま崩壊には至らず週末は反騰した。

先限引き継ぎ足チャートでは、30,300円(8/13)は天井。ネックラインの27,610円(8/16)、27,590円(7/24)をも完全に割り込んだのだから、三尊天井の完成である。

そうは言っても、基本的にファンダメンタルズは強く、逆ザヤ相場であることを考えると、簡単に下がるのもまた困難に見える状況でもある。

よって先週号でもコメントしたが、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥31,810	8月23日	¥21,060	6月4日	¥29,000
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥30,950	8月22日	¥20,520	6月4日	¥29,220
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥30,340	8月22日	¥20,820	6月4日	¥28,820
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥30,300	8月13日	¥21,040	6月4日	¥28,660
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥30,300	8月13日	¥21,490	6月18日	¥28,340
2013年9月	¥28,500	8月16日	¥29,430	8月23日	<b>¥27,310</b>	<b>9月6日</b>	¥27,740

○シカゴコーン日足

…削除済み…

週末9/7のシカゴ市場は、12月限で1セント高の799.50セントでの終了。高値は804.75セントまであったが、8ドル台維持はならなかった。

相変わらず、8/10に849.00セントまで上昇した後は、8ドルを挟んだ攻防が続いている状況だ。

さて天候相場は最終局面を迎えており、すでにハーベスト・プレッシャーも相場の頭を押さえる状況になりつつある。

しかしファンダメンタルズでは、**インフォーマ社**が次回 12 日に発表される米農務省報告の見通しを、**単収 119.8Bu/Ac** (8 月米農務省報告 123.4Bu/Ac)、**生産高 103 億 1000 万 Bu** (同 107 億 7900 万 Bu) と下方修正で出すなど、供給減は更に拍車の掛かった予想となっている。

当方が注目しているのは生産高よりも需要であり、**在庫率が現在の 5.8%からどう変化するか**であるものの、チャートが悪いからと言って簡単に崩れないのは、この強いファンダメンタルズが背景にあるからだろう。

なお CFTC 発表の 9/4 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、ファンダメンタルズの強さとチャートの弱さの綱引きである。しかしこれは誰もが承知している事だろうから、上がるか下がるかは別な材料がきっかけになる可能性も高いか。となるとやはり、FOMC の動向が穀物相場にも大きく影響するかもしれない。

○東京大豆日足

…削除済み…

今週の大豆の値動き

	10月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
9月3日	¥60,550	110	¥50,700	520
9月4日	¥61,600	1050	¥51,400	700
9月5日	¥61,690	90	¥51,570	170
9月6日	¥60,900	-790	¥50,720	-850
9月7日	¥61,290	390	¥51,390	670

続いて一般大豆です…

先週号においては『まだもう一度吹き上げる場面があるのではと考えているものの、先限引き継ぎ足としては頭が重くなっている印象も否めない。限月ごとの作戦も視野に入れて、徐々にポジションを変えてゆく作戦も考えないといけないのかもしれない』とコメントした。

今週の相場展開は、**51,810円(9/5)**と先物は一代高値の更新。コーンのチャートが悪化すると反対に、再びチャートも好転している姿である。

大幅逆ザヤの相場であり、ファンダメンタルズも強いわけだから、…中略…

注目はやはり12日の米農務省報告であり、13日のFOMC声明という事になるだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥62,100	7月23日	¥36,410	12月15日	¥61,290
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥63,950	7月23日	¥36,830	12月16日	¥58,750
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥56,730
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥56,480	7月23日	¥41,750	6月4日	¥54,100
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥52,190	7月20日	¥44,400	6月18日	¥51,780
2013年8月	¥48,020	8月16日	<b>¥51,810</b>	<b>9月5日</b>	¥47,620	8月17日	¥51,390

○シカゴ大豆日足

…削除済み…

週末9/7のシカゴ市場は、11月限で前日比10.50セント安の1736.50セント。直近の高値は1789セント(9/4)であり、もちろんこれは史上最高値である。

この日の下落は、米雇用統計の悪化で買われた金とは真逆に、株や原油が下落したことを嫌気した格好である。

ただインフォーマ社は12日の米農務省報告の予測を、**単収 35.4Bu/Ac**(8月米農務省報告36.1Bu/Ac)、**生産高 26億3900万Bu**(同26億9200万Bu)と下方修正。供給面はさらに逼迫の強いファンダメンタルズを出しているわけで、あとは需要をどう出すかが注目だろう。

需要面に関しては、今のところこの高騰した価格でもレーショニングは起きていないとも言われており、これは中国の食肉消費量の増加により、同国が今更輸入を抑える事が不可能であろうという事が根底にあると言われている。

またもうすぐ始まる南米産の作付は、この価格帯であれば大增産が予測されるのは当然であるものの、今年はエルニーニョ現象が発生しており、南米も天候不安が予測されている。これはこの冬の強材料になるかもしれない。

なお CFTC 発表の 9/4 現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、押し目買い方針に変化はないものの、12日・13日に重要な発表を控えているため、また国内週末は3連休前の立会いとなるため、乱高下の可能性もある。



## [ゴム]

○東京ゴム日足

…削除済み…

### 今週のゴムの値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
9月3日	221.5	5.7	227.8	10.0
9月4日	220.0	-1.5	224.4	-3.4
9月5日	217.0	-3.0	219.1	-5.3
9月6日	220.7	3.7	227.0	7.9
9月7日	220.6	-0.1	227.8	0.8

先週号においては『230円台乗せからすぐに下げてしまった相場であるが、サヤの変化が相場の変化となるか？ 205円で底を打っている相場ではあろうから、先物が順ザヤへの回帰で再び上昇した場合（期近から崩れて順ザヤになった場合はダメだが）、買いトレンドが出るかどうか注目したい』とコメントした。

今週の相場展開は、**220円台での乱高下**となり、230円寸前まで上がってと急落。220円を割れば再び買い直される展開での推移。

チャートはなべ底のような格好に変化しており、相対力指数も50ポイントオーバー。これを見る限り、おそらく205円での底打ちは完了しているだろう。

あとは**230.2円を抜けられるか、一目均衡表の雲の上に出られるか**、という事になるのだろう。生産国の価格テコ入れ政策には期待していないが、チャートが好転すれば相場も変わるだろうというのが、当方の基本的な考え方だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

### 東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	341.2	3月27日	341.9	3月27日	198.5	8月15日	220.6
2012年10月	307.2	4月24日	317.8	5月2日	200.9	8月15日	224.7
2012年11月	267.8	5月28日	274.0	5月30日	203.6	8月15日	225.6
2012年12月	233.3	6月26日	259.6	7月4日	204.5	8月15日	226.5
2013年1月	230.2	7月26日	238.4	7月30日	205.6	8月14日	227.2
2013年2月	230.0	8月26日	230.2	8月26日	216.4	8月31日	227.8

当先のサヤは、9月限220.6円～2月限227.8円と**7.2円の順ザヤ**。先週の同ザヤと言っても良い水準からは拡大したが、それでもまだ大きくない。

**週末現在の輸入採算価格は、…中略…**

国内営業倉庫在庫は、8/31現在で724トン減の6,645トン。11旬連続の減少であり、国内在庫はかなり低下した。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、22,000 元を挟んだもみ合いである。こんなに在庫が増加していたら、そりゃ上がらないのも道理か。

タイ・インドネシア・マレーシアの生産主要 3 カ国は、30 万トンの具体的な輸出制限措置を**発表**。上海ゴムの在庫急増を考えれば、これに期待してもしょうがないとは思うものの、目先はチャート判断を優先したい。

上に抜ける想定ばかりではなく、逆に下に抜けるケースも考えておかないと片手落ちになるゆえ、それを考えると、**216.4 円を割り込むと下抜けだろう**。

結論として当方の相場観は、205 円で底が入っている相場と考え、押し目買い方針。230.2 円を抜けたら、更に舞い上がると見る。しかし 216.4 円を割り込むと、再びチャートは悪化するため、そこにはストップロスを設定しておきたい。

## 〔原油・石油製品〕

○NY 原油日足

…削除済み…

今週の原油の値動き

	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
9月3日	¥55,050	680	¥53,740	
9月4日	¥55,920	870	¥54,390	650
9月5日	¥55,140	-780	¥53,520	-870
9月6日	¥55,300	160	¥53,680	160
9月7日	¥55,510	210	¥54,010	330

まずは原油から…

先週号においては『NY 原油はファンドの買い姿勢が強まっている。金融緩和を背景にした買いかもしれないが、それが実際に行われるかどうかで今後の展開は大きく変わりそう。現状ではまだ判断がつかないため、更なる上昇相場なるのか、戻りいっぱいなのかを見極めるため、様子見するのがベターであろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY 原油は 95 ドルを挟んでのもみ合い。6日のECB理事会終了後は一時大きく買われたが、週末の米雇用統計発表後は 94 ドルまで一時急落し、終わりは 96.42 ドルと前日比 0.89 ドル高での終了である。

100 ドルを手前に団子天井の様相もあるが、下げに転じるのか、再び騰勢を強めるのかは、来週の FOMC 次第という事になるのだろう。上値抵抗線は 98.29 ドルであり、下値支持線は 92 ドルにある。

…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

東京原油は、54,000 円を挟んだもみ合い。上値抵抗線は 55,180 円 (8/22) であり、52,700 円が下値支持線。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	¥60,800	4月2日	¥61,900	4月4日	¥43,780	6月26日	¥55,510
2012年10月	¥57,430	5月1日	¥57,710	5月2日	¥44,310	6月26日	¥55,050
2012年11月	¥47,650	5月1日	¥55,580	9月5日	¥44,190	6月26日	¥55,730
2012年12月	¥47,580	7月2日	¥55,340	8月22日	¥46,240	7月3日	¥54,440
2013年1月	¥48,890	8月1日	¥55,180	8月22日	¥48,420	8月1日	¥54,220
2013年2月	¥53,910	9月3日	¥54,830	9月4日	¥53,220	9月6日	¥54,010

結論として当方の相場観は、目先は天井を打っていて下落するか、それとも一段高に舞い上がるかは、FOMC 次第で決まるだろう。先入観を持たずに、放れた方に付く作戦としたいところ。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

### 今週のガソリンの値動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
9月3日	¥67,770	870	¥64,380	1070
9月4日	¥68,200	430	¥65,200	820
9月5日	¥66,940	-1260	¥64,200	-1000
9月6日	¥67,020	80	¥64,600	400
9月7日	¥67,010	-10	¥64,940	340

続いてガソリンです…先週号においては『65,000円台は元々の目標値であったわけで、そこから下落して天井を打っているのか、それとも今後更なる上昇相場があるのかは、QE3の動向次第であろうと見ている。よって、しばし様子見で次の相場を考える時期であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、65,000円を挟んでの乱高下。高値は66,000円(6/4)と更新しているが、これで戻り天井を打っているのか、それとも一段高が残っているのかは、微妙なチャートである。

ともかくNY原油は、先週のバーナンキ発言では大きく買われ、今週の米雇用統計では一度は急落したわけだ。ただし両方とも、その後に相場が走る事はなかったわけである。

やはり方向性が決まるのは、来週のFOMCであろう。

ポイントは、66,000円を抜けて、更に相対力指数も70ポイントオーバーの青天井型になれば上へ。逆に63,140円を割り込んで、Wトップ型のチャートとなれば深い下げへと進むのだろう。先入観を持たずに、放れた方向に付きたい。

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥74,980	3月26日	¥75,430	3月28日	¥54,850	6月26日	¥67,010
2012年11月	¥69,280	4月26日	¥69,690	4月27日	¥54,040	6月26日	¥65,830
2012年12月	¥61,470	5月28日	¥66,120	9月4日	¥53,530	6月26日	¥65,130
2013年1月	¥54,070	6月26日	¥65,740	9月4日	¥53,460	6月26日	¥64,700
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥65,560	8月24日	¥58,160	7月27日	¥64,490
2013年3月	¥64,510	8月27日	¥66,000	9月4日	¥63,140	8月28日	¥64,940

9/7現在の業者間転売価格は、…中略…

9/1現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、目先は天井を打っていて下落するか、それとも一段高に舞い上がるかは、FOMC次第で決まるだろう。先入観を持たずに、放れた方に付く作戦としたいところ。ポイントは本文を参考に…。

○東京灯油日足

…削除済み…

### 今週の灯油の値動き

	10月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
9月3日	¥68,360	610	¥67,570	700
9月4日	¥69,290	930	¥68,430	860
9月5日	¥68,440	-850	¥67,450	-980
9月6日	¥68,700	260	¥67,750	300
9月7日	¥69,190	490	¥68,100	350

最後に灯油です…先週号においては『もっと天狗ザヤが形成されても良いのではないかと思うものの、サヤ取り派が少なくなってしまうのも事実。それでも一応考え方としては、1月限の押し目買い、3月限の戻り売り戦略であり、大きな変動はFOMC明けと見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、68,000円を挟んでのもみ合い。ただし9/5の下落前の夜間取引では、**68,800円と一代高値を更新**するなど、先物4本が今週も高値更新。

先物3月限は、需要期の1月限辺りと比べてもそんなに逆ザヤは無いし、同限月のガソリン相場に対しても大きく上ザヤに居るなど、どうも解せない展開である。

相場自体の方向性を決めるのは、今週のFOMCであろうが、このサヤ状態は売り方の踏みも出ているのかもしれない。

もっとも先限引き継ぎ足では、…中略…

なお一代の推移は、以下のとおり。

### 東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年10月	¥74,590	3月26日	¥75,370	3月28日	¥55,650	6月29日	¥69,190
2012年11月	¥70,800	4月26日	¥71,400	4月27日	¥56,350	6月26日	¥68,950
2012年12月	¥64,110	5月28日	<b>¥69,590</b>	<b>9月4日</b>	¥56,800	6月26日	¥69,040
2013年1月	¥57,800	6月26日	<b>¥69,580</b>	<b>9月4日</b>	¥57,080	6月29日	¥68,990
2013年2月	¥61,810	7月26日	<b>¥69,480</b>	<b>9月5日</b>	¥61,350	7月26日	¥68,760
2013年3月	¥67,500	8月27日	<b>¥68,800</b>	<b>9月5日</b>	¥66,100	8月28日	¥68,100

9/7現在の業者間転売価格は、…中略…

9/1現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、上値抵抗線は先限引き継ぎ足での69,250円である。3月限でもこれを抜くようなら、一度手仕舞いするしかあるまい。逆に66,100円を割り込むようなら、完全に戻り売りへと変わるだろう。来週以降の相場に注目したい。

## [為替]

### ○ドル/円相場日足

…削除済み…

今月に入って 78 円台での小動きな展開が続いているわけだが、先週末はバーナンキ発言で円高/ドル安は進行。今週末は米雇用統計の発表で一時 77.99 円と円高が進行である。

対ユーロでは円安なのだから、これは円高というよりはドル安なわけであるが、前日まで円安に向かいそうになったところから、再び円高となったわけだ。

円高も下値は固まってきているとは思われるが、やはり雲の上に出て、80 円と来るまではまだ何らかの材料が必要なのかもしれない。

### ○ユーロ/円相場日足

…削除済み…

横ばいだったユーロ/円相場は、ECB 理事会での国債無制限購入にニュースで 99 円台まで円安が進み、更に週末の NY 市場では 100 円台まで円安が進んでいる。

チャートでは一目均衡表の雲の上に出ており、あとは 101.61 円 (6/21) の上値抵抗線も抜ければ、対ユーロでは更に円安が進んでもおかしくない。

もっとも、ユーロが完全復活したかどうかは、…中略…

### ○ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ECB 理事会後に 1 ユーロ = 1.265 ドルまでドル安/ユーロ高が進んだわけだが、週末の米雇用統計を受けてユーロ/ドル相場は、一段とドル安が進行。1.28 ドル台までドル安/ユーロ高が進んでいる。

すでに一目均衡表の雲の上に出ているチャートは、…中略…

---

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス [info@higenaka.com](mailto:info@higenaka.com)